

## 10. 阿弥陀山山域

阿弥陀山(837m)は、湯来の大森神社側から見ると編み笠のような美しい形をしているが、本峰には深い谷はなく、西に延びる稜線上の阿弥陀山西峰(907m)周辺に谷が発達している。全山ほぼ植林の山で、太田川林業地基幹線林道(伏谷工区)が、南面の八幡原から本峰の中腹を東から巻いて、西稜線沿いに大峯山方面に延びている。登山道は大森から本峰までは明瞭だが、西峰から日入谷方面は笹に覆われ、訪れる人も少ない。南面は麓に砂谷牧場があるように傾斜が緩く、唯一興味を引く八幡川源流の足谷川も、中流に一カ所、谷が狭まったところがあるのみで遡行対象とならない。これに対して、北面の水内川には、西から弥平谷、豆栃谷、中倉谷、黒谷と比較的深い支川がある。これらの谷奥には、その昔は集落があり棚田もあったが、概ね昭和40年頃までには離村し、今は石垣が残る。その跡には杉が植林され、谷は暗く倒木で荒れている。弥平谷は、平家の落人が開いたとされる谷だが、白井集落のあった支川には、集落下に落差50mの大滝があって驚かされる。豆栃谷は、集落跡付近は倒木ジャングルとなっているが、谷の狭まる上流部には大滝を含む滝が連続し、枝谷を山上に詰めると、大蛇伝説の残る池の草の蛇の池に出る。中倉谷は遡行対象とならないが、その東側の明市谷は、下部は開けたゴース口の谷だが、中流以後、傾斜を上げていくと滝が連続し、両門の滝が会おう迫力ある二俣を過ぎると、上流部は、この山域には珍しい穏やかな自然林の源頭になる。豆栃谷と明市谷は、西峰から日入谷への道を下山道として使える。黒谷川は上流部に今も家が残る黒谷集落があって、谷沿いには、かつては木馬道もあり、現在も何とか辿れる。この谷は、昭和37年の広島山稜会の会報「峠」に、中流部に3m、15m(黒谷のイオキリ滝)、4mの滝がある以外は傾斜の緩い谷という記録がある。実際に訪ねると、中流部に高いゴルジュがあり、黒々とした岩を割って8m程の曲り滝が落ちていた。

阿弥陀山 水内川支流 弥平谷支川

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-6015225.html>

2023年10月06日(金) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 国道488号線の来栖根の水内川にかかるJA湯来発電所の橋を渡って弥平谷沿いの道に入り、支川2と支川3の間の道路脇スペースに駐車。

コースタイム 日帰り 山行 5時間25分 休憩 19分 合計 5時間44分

Sスタート地点 10:02 10:19 弥平谷支川2出合 10:24 12:30 二俣 12:41 中間尾根稜線

12:50 13:16 白井谷左俣 13:21 14:00 白井谷二俣 14:31 白井谷右俣折返し点 15:36 弥平谷堰堤 15:46 ゴール地点 G

コース状況／危険箇所等 谷沿いに植林作業道の踏み跡やテープがあるが、荒れている。白井集落跡への道は不明瞭。地形図にはないが、阿弥陀山の林道(未舗装)が弥平谷方面に延長されている。

阿弥陀山は、伏谷の大森神社からピストンする人が多いが、日入谷からの縦走記録もたまにある。弥平谷方面の記録は殆ど見ないが、古い地理院地図には登山道が記されている\*。弥平谷は平家落人に由来し、昔は柏木峠を越えて玖島に結ぶ古道があった。現在は、その一部を使って湯来スパ&アドベンチャートレイルが行われている\*\*。阿弥陀山から大峯山に続く稜線から西に流下し、弥平谷にそそぐ支川がいくつかあり、下流から2番目の谷と3番目の谷が、地形図上では興味を引いた。支川3の谷沿いには、以前は白井集落があった\*ので、白井谷と仮称する。支川2は流域面積は小さいが、急峻である。

実際に訪れると、出会いの貧弱さに止めようかと迷ったが、登っていくにつれ、連瀑帯が現れて楽しませてくれた。しかし、上流に行くにつれて、植林帯の倒木地獄となってしまった。白井谷との中間尾根を越して、白井谷左俣に降りる計画であったが、阿弥陀山の林道が延伸され、白井谷左俣まで降りて来ているのがっかりだった。白井谷左俣は、平凡な谷で下流まで倒木地獄が続き遡行価値は無かった。気を取り直して、右俣に入ってみると、岸の立った良い溪相で幾つかの滝もあり、うれしくなった。折り返して、二俣まで下ると白井集落跡の石垣が数多く見られ、往時が偲ばれた。集落跡から弥平谷までの白井谷は良い溪相だったが、途中で2段50mの大滝が現れたのには驚いた。こんな素晴らしい滝が知られていないとは！そして、こんな大滝の奥に隠れるように集落が在ったなんて。

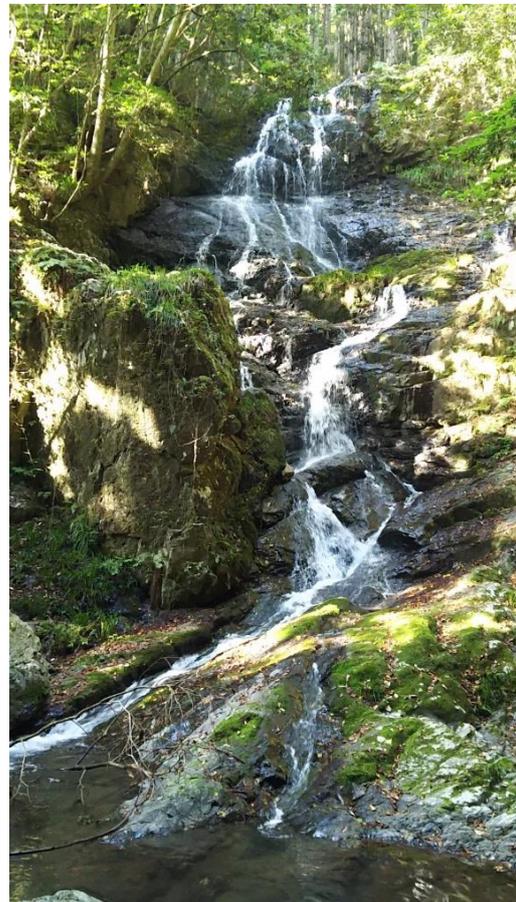
☞支川2のオーバーハングの20m滝は右岸から巻く。

☞白井谷の50m大滝は、右岸の小尾根から小さく巻いて中段のテラスに降りる。

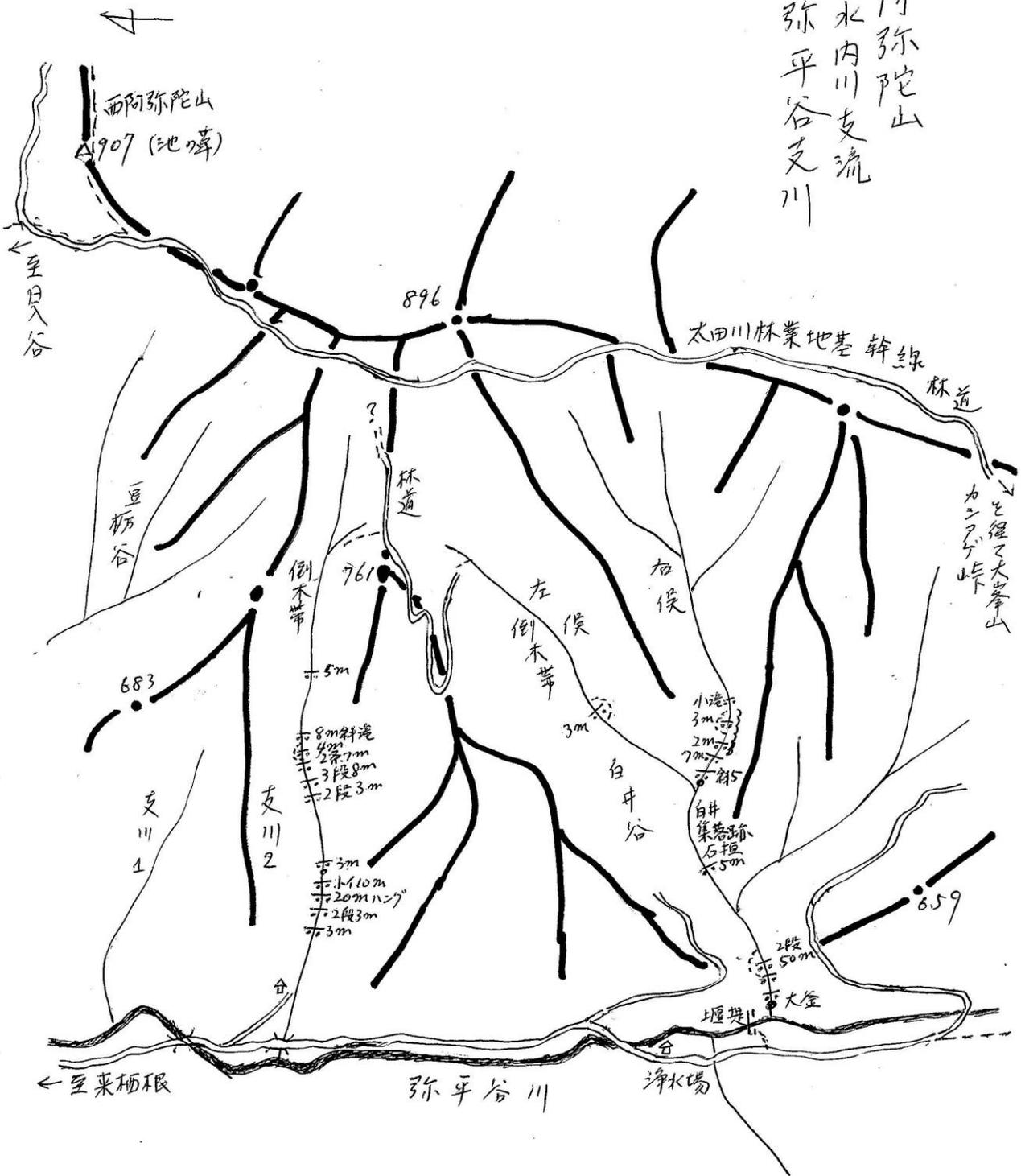
\*<https://hanachann.net/edapage/sato5.html>

\*\*<https://yukispatrail.com/information/50/>

(写真左は、支川2の20mハング滝、写真右は白井谷大滝2段50m)



阿弥陀山  
水内川支流  
弥平谷支川



阿弥陀山 水内川支流 豆栃谷 池の草に到らず

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-6029100.html>

2023年10月08日(日) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 湯来ロッジ前の駐車場に駐車し、日入谷まで15分ほど歩き、豆栃谷わきの林道に入り、入渓。

コースタイム 日帰り 山行 5時間47分 休憩 0分 合計 5時間47分

S 湯来ロッジ 08:59 09:22 豆栃谷入渓点 12:28 詰めの枝沢入口 13:09 稜線 13:22 822 頂 14:13 豆栃谷林道 14:46 湯来ロッジ G

コース状況／危険箇所等 西阿弥陀山～日入谷の登山道は、822 頂～760 頂まで深い笹に覆われている。760 頂からは笹が無くなるが、踏み跡、ピンテが少なく迷いやすい。ルートをはずして、豆栃集落跡のほうに降りてしまった。

阿弥陀山は、主峰以外は不遇な山だが、以前、日入谷から西阿弥陀山の西北尾根付近にあるという池の平を探訪したヤマレコの記録\*を見て、豆栃谷を遡行して訪ねたら面白いのではないかと思った。阿弥陀が峯の池の草の蛇の池は、極楽寺の蛇の池とつながっていて大蛇が行き来していたという\*\*。豆栃谷には、下流部に昔は豆栃(まめどち)という集落があり\*\*\*、昭和30年代に離村したようだ。地形図で見ても、上流部には狭い部分があるものの平凡そうで、豆栃谷は何もない谷かもしれないという懸念があった。確かに、豆栃集落付近は平凡な流れが長く、その先は絶望的な植林の倒木ジャングルに悩まされたが、溪相そのものは意外と良く、上流部は大滝を含む連瀑帯があったのは発見であった。大滝の巻きで手にケガをしてしまったことや、雨が降り出したこともあり、結局、池の平を探訪することができなかった。豆栃谷をなめていたのかも知れない。色々痛い山行となってしまった。

(写真は15m大滝)

☞ 未広がり姿の良い15mは、右の水流際から登る。

☞ 続く5mは左岸の枝沢から巻く。

☞ 最後に現れる15m大滝は左岸の岩壁から小さく巻けるが、岩がもろく落石に注意。

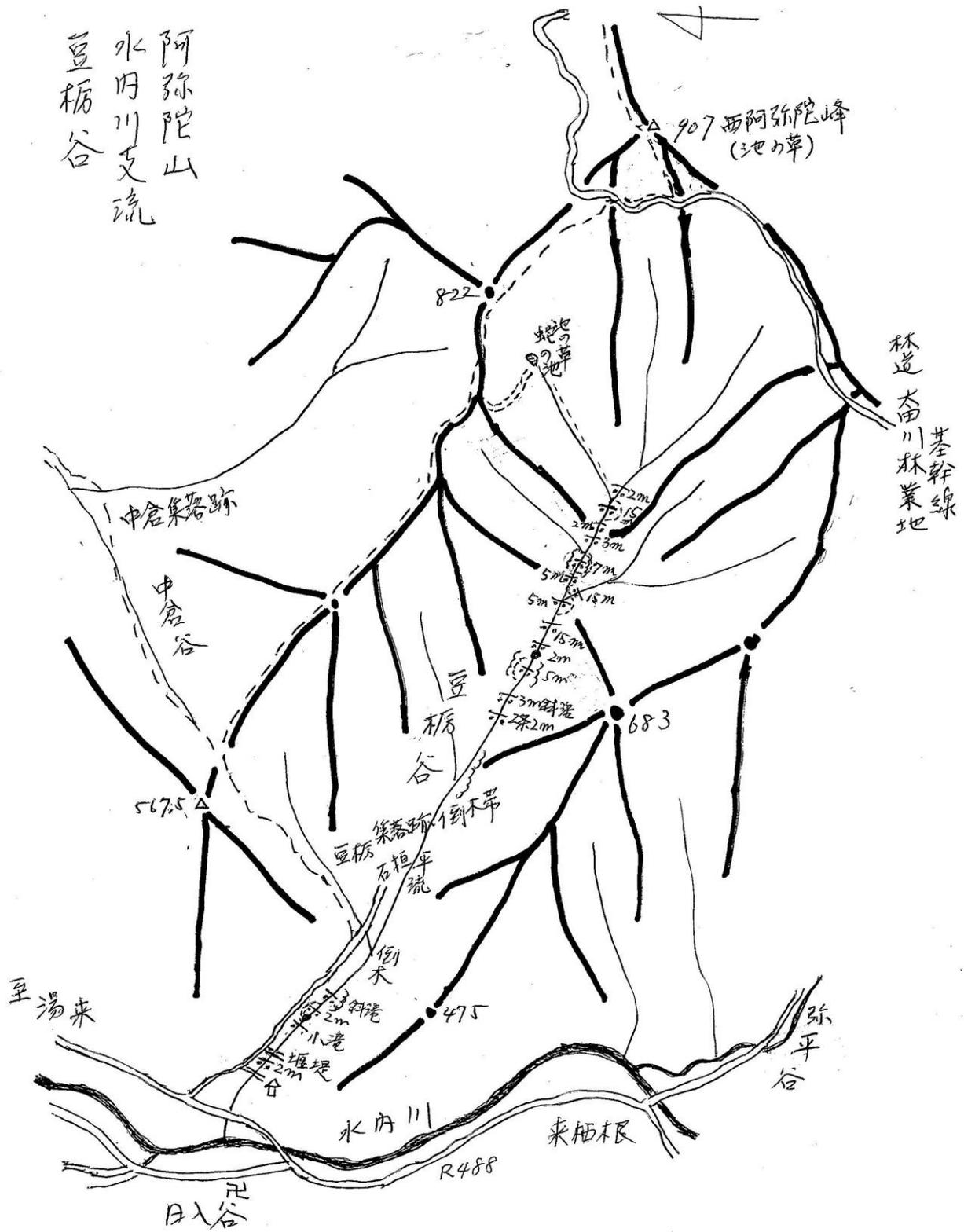
\*<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-2973801.html>

\*\*<http://hunterslog.net/dragonology/ryujatan/chugoku/amidayama/01.html>

\*\*\*<https://hanachann.net/edapage/sato5.html>



阿弥陀山  
水内川支流  
豆柄谷



阿弥陀山 水内川支流 明市谷から池の草

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-6087684.html>

2023年10月22日(日) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 国道488号線で田布を過ぎ、水内川にかかる中田橋を渡って、廃車置き場を過ぎて中倉集落跡に続く林道入口にコンクリ敷の駐車場がある(2台)。

コースタイム 日帰り 山行 6時間32分 休憩 20分 合計 6時間52分

S 中田橋南詰 09:12 09:36 明市谷堰堤 11:57 二俣 12:07 12:52 奥二俣 13:28 西阿弥陀山北稜線 14:19 池の草 14:29 14:36 760 頂 15:02 中倉分れ 15:34 中倉集落跡 16:04 中田橋南詰 G  
コース状況/危険箇所等 西阿弥陀山 907m から日入谷への登山道は、760 頂までは深い笹に覆われているので赤テープが頼りになる。760 頂からは笹がなく歩きやすい。650m 付近は尾根が広く、降りる方向を迷いやすいが、北西方向の急坂をおりる。日入谷・中倉分岐から中倉方向へは、最初は明瞭だが、中倉集落跡に入ってから道が不明となる。

弥陀山北面の明市谷は、地図上では最初は開けた谷だが、高度をどんどん上げているあたり、何かあるのではと期待された。Yahoo マップの航空写真で見ると中倉集落跡の手前から堰堤への取りつき道が伸びているようだ。ところが、現地に行ってみると、この取りつきが分かりにくく、少し彷徨ってしまったが、駐車地から、少し藪を漕いで登って道に出ることができた。明市谷の下流は地図通りの開けた谷にゴーロが続いたが、中流以後に傾斜が強まると、岩が立って、良い感じの中に大滝を含む滝が続くようになった。二俣には両門の滝をかけ、迫力があつた。上部は、苔むした谷が終わると、素敵な自然林の源頭部となって、思った以上に良い谷だった。詰めは、西阿弥陀山(点名池の草)の北稜線を越えて、前回遡行した豆栃谷の枝谷にもう一度下り、発見できなかった阿弥陀が峯の池の草の池を目指した。今回は、もみじさんのレコ\*を見て、ピンポイントで位置を確認したので、谷を詰めて、うまく池の落ち口に到達することができた。草の池は、思ったより小さかったが、秋の空を映して静かだった。下りは、中倉への分岐を取ったが、途中の中倉集落跡で道を失い、何段も続く石垣を避けてさまようことになってしまった。これは、以前の日室や白井集落跡でも経験していることで、どういう風に道がついていたのだろうと思う。中倉の集落は 30 戸程もあったが昭和 40 年代初頭に離村したようだ\*\*。



なお、明市谷の名称は、広島市佐伯区役所農林建設部「佐伯区管内図」によった。「あけいち」と読むのだろうか。明市谷にも文礼初年まで集落があったとされる\*\*\*。(写真は滝 8m と池の草の蛇の池)

☞ 大滝 8m は、左の大岩を高巻く。

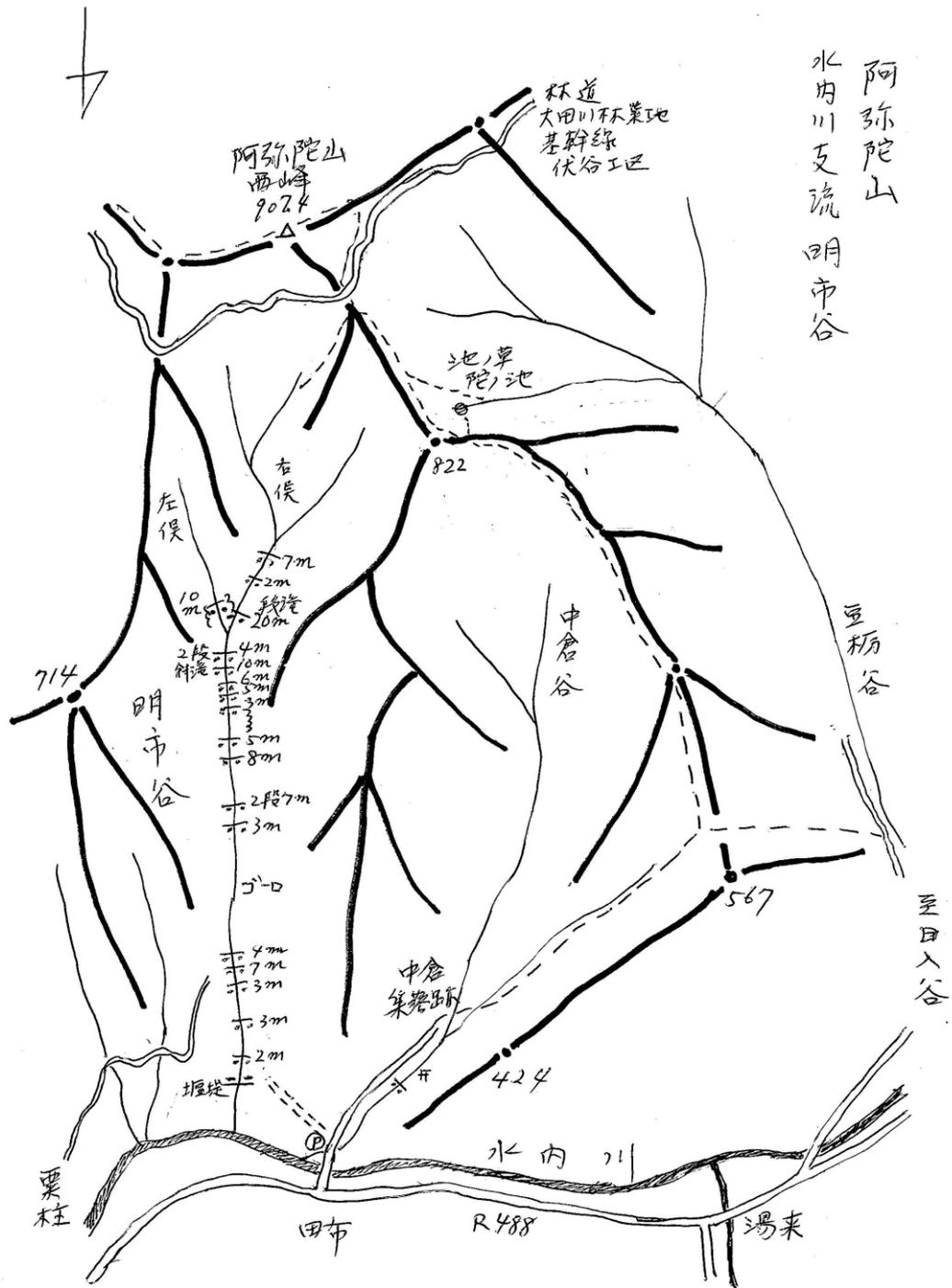
☞ 右俣の 20m 段滝の下段は右のクラック沿いに登り、左へ横断して、上段は水流際を登る。



\*<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3543637.html>

\*\*<http://www.cf.city.hiroshima.jp/yukinishi-k/bunkazaitoppage/bunka/5.html>

\*\*\*[com-net2.city.hiroshima.jp/sagotani/](http://com-net2.city.hiroshima.jp/sagotani/)伝承や民話から見る町の歴史/史跡・民話の里めぐり紀行/?action=common\_download\_main&upload\_id=1195



## 11. 笹ヶ丸山山域

笹ヶ丸山(648m)周辺には、かつては安佐町久地と湯来を結ぶ幾つもの峠道があったが、高山、丹原の集落の離村とともに、現在は高山集落跡から鉾ノ峠を經由して山頂に至る登山道以外は、通る人はほとんどない不遇な山域である。主峰の標高は低い、その山域は久地と湯来にまたがって集水域も広く、その殆どが笹ヶ丸山、島木山及びククリキ谷山国有林を含む植林地である。笹ヶ丸山の南面には、高山と丹原集落跡を源流とする高山川があり、下流部は宇賀峡として、かつては賑わったようだ。高山川の本流は、宇賀峡の猿淵と唐音(からおと)の滝の周辺のゴルジュが素晴らしく、丹原集落下にも、権現滝とよばれる滝があるが、林道がすぐ横を走っているので、遡行の興趣には欠けてしまう。いくつかある枝谷には、出会いに滝を落とすものもあるが、水量が少なく、遡行価値は低そうである。東面には、瀬谷があり、加藤武三「緑の回廊 広島近郊の山と谷」によれば、昔は本峰と東峰(663m)の間の鞍部、水越を經由する笹ヶ丸山への登山道があったが下流部の林道歩きが長い。北面では、鉾ノ峠に発し、湯来の津伏に流下する椿谷は、源流の広い森の水をあつめた流れが、花崗岩を穿った困難なゴルジュの中に、いくつもの大滝をかけている。こんなところに、こんな美溪がと、思うような谷である。西面では、ドン畑峠、中源峠、鉾ノ峠と続く水内川右岸尾根へ幾つかの谷が延びているが、谷沿いに林道のない矢流の岩ヶ谷が、小溪流ながら、中流部に深いゴルジュを有して面白い。これらの谷の下山道としては、笹ヶ丸山の登山道のほか、かつての峠道や、国有林の管理道が使える。

笹ヶ丸山 太田川支流 島木谷～椿谷 鉾ノ峠の古道を下って

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-6136912.html>

2023年11月03日(金) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 湯来方面より国道433号線を北上し、太田川の手前で右に1車線の県道に入る。椿谷出合いを少し過ぎた中国電力の取水施設の横の広いスペースに駐車。県道を東に歩いて、佐伯区境の青い標識がある島木谷出合いより入渓。

コースタイム 日帰り 山行 7時間20分 休憩 27分 合計 7時間47分

S津伏中電取水施設 08:55 09:07 島木谷出合い 10:30 島木谷二俣 11:32 鞍部 12:03 570ピーク 12:24 笹ヶ丸山 12:41 13:15 鉾ノ峠 13:25 13:57 椿谷二俣 16:32 下配水池 16:42 津伏中電取水施設 G

コース状況／危険箇所等 笹ヶ丸山から北へ津伏へ延びる尾根道には「広島市の山を歩く」でガイドされている明瞭な道がある。また、鉾ノ峠から津伏への道も途中までは明瞭である。(中程から谷に降りたので、途中は不明だが、木馬道の名残のような広い道だったので、多分下まで良い道が続いていると思われるが、谷が狭まっている個所でどうなっているかは、わからない)。

湯来町津伏で太田川に流入する椿谷は、地形図では下流部は谷が狭いが、上流部は平坦な地形となり、笹ヶ丸山北西麓とククリキ谷山東面の間の広い範囲の水を集めている\*。また、笹ヶ丸山の登山口である安佐町高山から鉾ノ峠を越えて津伏を結ぶ長い古道が椿谷に沿っている。つぎに島木谷だが、津伏の東端の佐伯区と安佐北区の区境を流れる小溪流で、昔は、久地の瀬谷と津伏を結ぶ峠路があり、峠付近には集落もあったという\*\*。今回、笹ヶ丸山をめぐる谷として、島木谷を登り、椿谷を下降する周回ルートを通ってみた。事前の懸念は、島木谷が水量の少ない藪沢ではないかということ、長いルート

となるので島木谷の詰めから笹ヶ丸までの稜線の道があるか、そして鉾ノ峠から椿谷への古道が残っているか、であった。結果的には、一番目以外は懸念がはずれた。笹ヶ丸山の北稜線には良い道が続いていたし、椿谷沿いの道は木馬道の名残のようで、所々石垣が残っていた。島木谷は、やはり水量が少ないうえに倒木が酷く、暗い印象の谷だった。広島市西部の谷を遡行するには、倒木抜けの技術が必須だ。一方、椿谷は地形図で想像したより、はるかな美渓で、源流部の長いナメの後は、白い花崗岩の難しいゴルジュと大滝が連続し、すばらしかった。こんな所に、これほどの谷があるとは。アプローチも浄水場の上の堰堤まで広い路があり、木馬道あるいは笹ヶ丸北尾根を使えば下山路もあり、もっと登られて良い谷だ。なお、谷の名称は、広島市佐伯区役所農林建設部「佐伯区管内図」及び近畿中国森林管理局の施業実施計画図太田川 12-3\*によった。

☞大滝 15m は、左岸を小さく巻いておりる。

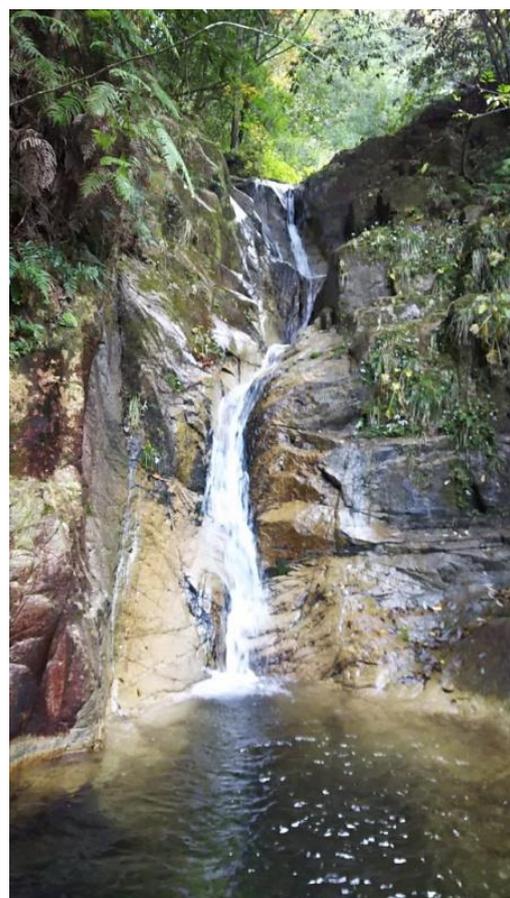
☞ゴルジュ内の10mと 15m は、まとめて右岸の急な小尾根をよじ登って、大きく高巻く。

☞ゴルジュ奥の 2 条 7m は、左岸から立木を支点に懸垂で降りる。続くトイ状 5m も左岸から立木を支点に懸垂で降りる。

\*[https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/keikaku/shinrin\\_keikaku/system\\_summary/hirosima/zumen\\_110ohtagawa.html](https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/keikaku/shinrin_keikaku/system_summary/hirosima/zumen_110ohtagawa.html)

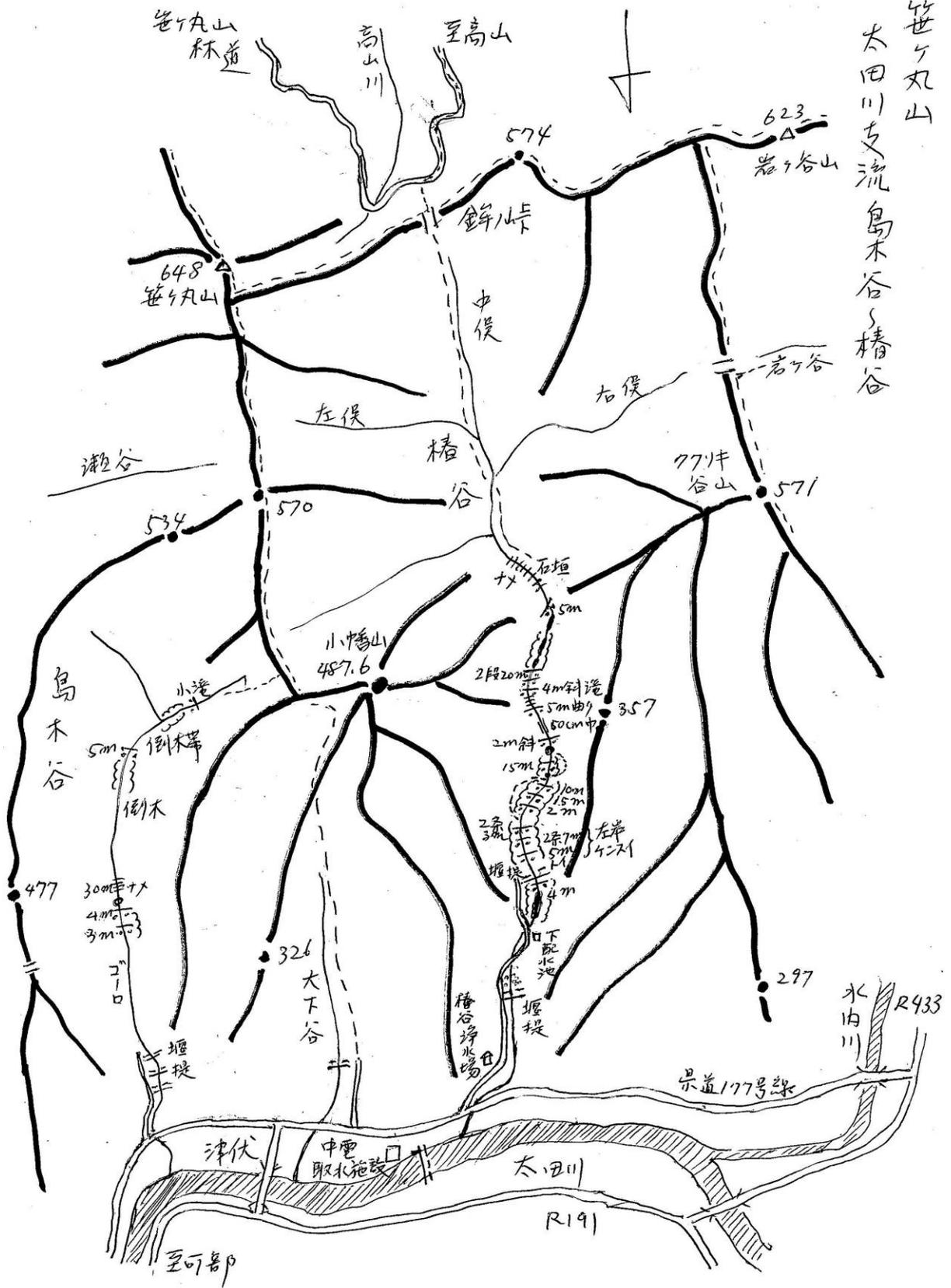
\*\*<https://awakin.cocolog-nifty.com/blog/2011/01/post-59be.html>

(写真は上部ゴルジュ内の長測と 15m 大滝)



笹ヶ丸山

太田川支流 島木谷 椿谷



湯来岩ヶ谷山 水内川支流 岩ヶ谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-6116206.html>

2023年10月29日(日) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 国道433号線を北上し、湯来町松原で旧道に入り、水内川にかかる松矢橋を矢流(やながれ)に渡って突き当りのT字路の手前のスペースに駐車。T字路を水内川沿いに右に進み、岩ヶ谷川にかかる赤い鉄橋の上流から入渓。

コースタイム 日帰り 山行 5時間46分 休憩 20分 合計 6時間6分

S 松矢橋西 09:05 09:12 岩ヶ谷出合い 09:22 10:49 二俣 12:00 ククリキ谷山 571m の南鞍部 12:10 12:44 中源峠・鉾ノ峠間の稜線 12:52 岩ヶ谷山 623m 14:20 二俣 15:11 松矢橋西 G

コース状況／危険箇所等 岩ヶ谷沿いには踏み跡が残るが、倒木などで分かりにくい部分がある。岩ヶ谷左俣を詰めた鞍部には南北方向には、明瞭な国有林の標識路が続いていて、南に辿ると中源峠から鉾ノ峠を結ぶ登山道につきあたる。623mの岩ヶ谷山までは、多少悪くなるが登山道を辿れる。岩ヶ谷山から岩ヶ谷右俣へは藪はないが岩交じりの急な尾根を下る。途中から左岸沿いに踏み跡が現れる。踏み跡は、二俣からは左岸沿いに降り、途中のゴルジュ手前から概ね右岸に沿って降りているが、谷に降りて下る部分もある。

笹ヶ丸山の麓、安佐町の高山からは、湯来町松原を結ぶ中源峠と、湯来町津伏を結ぶ鉾ノ峠を越える二つの古道があった。その二つの峠を結ぶ稜線上の623mピークは、地形図には名前がないが、湯来町誌には岩ヶ谷山の記載がある。また、岩ヶ谷山の北方の571mピーク周辺は、芸藩通志の佐伯郡下村の図\*では(建)ククリキ谷山となっている。(建は広島藩直轄の御建山を示す)。この二つのピーク間の水を集めて水内川の右岸、矢流に流下するのが、岩ヶ谷である。地形図には名前はないが、芸藩通志では岩屋谷とあり、また近畿中国森林管理局の施業実施計画図\*\*太田川12-3では、岩谷となっている。ここでは、岩ヶ谷山から流下するので岩ヶ谷としておく。岩ヶ谷川は、流程も短い小溪流にすぎないが、名前に惹かれて遡行してみた。水量は少ないが、谷の出合いから花崗岩の岩盤が発達し、溪相は良い。大きな滝は無かったが、いくつか見ごたえあるゴルジュもあり、面白かった。基本的には植林の山だが、溪畔林もあるので雰囲気も良い。地形図では左俣沿いに道があり、ククリキ谷山の南方稜線の鞍部を越えて鉾ノ峠から北へ延びる道に接続しているが、鞍部までは一部悪いものの何とか辿ることができる状態である。鞍部から東へ下る道は消滅しているように見えた。ククリキ谷山は国有林\*\*のため、境界となる南北方向には管理道があり、それを辿って岩ヶ谷山に登頂し、岩ヶ谷右俣を下り、二俣からは道跡を辿って矢流に降りた。湯来に伝わる話では、矢流は水内川平家城における源平の戦の矢が流れついた場所という。(写真はゴルジュ奥の小滝)

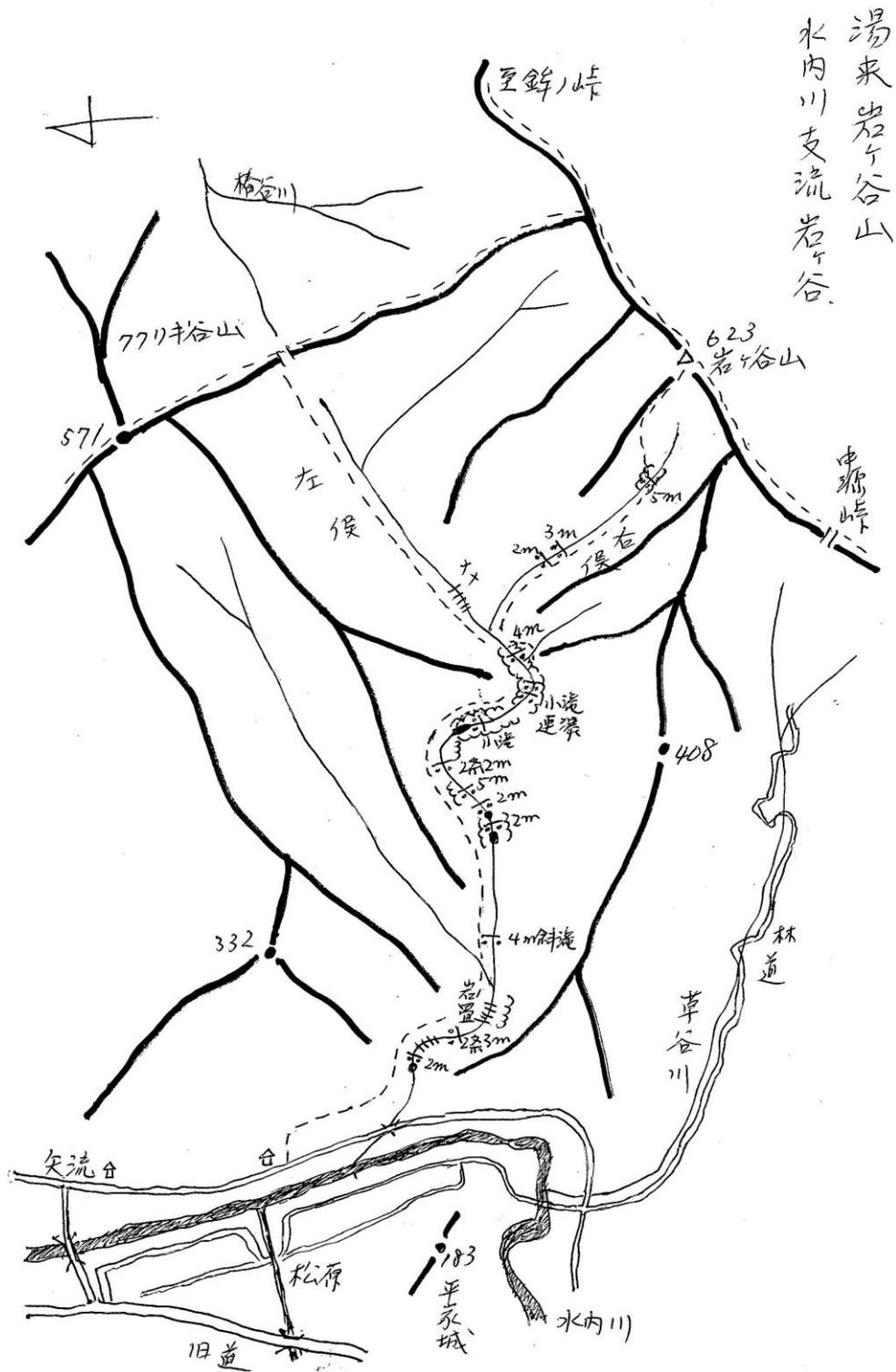


☞ 深いゴルジュの淵に落ちる小滝は、右岸手前より高巻く。

☞ その上流のゴルジュ奥4mの直瀑は、少し戻って左岸の枝沢を登って巻く。

\*<https://livedoor.blogimg.jp/tombosou/imgs/f/0/f0c62ef9.jpg>

\*\*[https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/keikaku/shinrin\\_keikaku/system\\_summary/hirosima/zumen\\_110ohtagawa.html](https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/keikaku/shinrin_keikaku/system_summary/hirosima/zumen_110ohtagawa.html)



湯来岩谷山  
水内川支流岩谷

## 12. 広島市西部の谷 5選+1

これまで、遡行記録のまれな広島市西部の谷を60本近く遡行してきた。その中から特にお勧めの谷を5本ほど紹介したい。これらは、いずれも、マイナーな谷ではあるが、十分に面白いと確信する。なお、ネット等で遡行記録がある、よく知られた谷は除いた。当然、巻き道などは、はっきりせず、浮石なども多いので、遡行には注意が必要だ。グレードも、それを考慮している。

### (1)窓ヶ山 下足谷(2級)

岩登りのゲレンデとしても有名な窓ヶ山南面には、急峻で登攀的な面白い谷がいくつかあるが、なかでも下足谷は側壁の高いゴルジュが稜線まで連続する、良い谷である。

### (2)東郷山 四本杉の谷(1級上)

東郷山の谷は花崗岩のナメがすばらしいが、四本杉の谷(仮称)は「広島県の滝」に紹介された美しい大滝を有する谷で、最後は苔むした流れが有名な巨木の四本杉のある森に突き上げている。

### (3)天上山 念仏谷川(2級上)

天上山ではスケールの大きな沢登りが楽しめるが、念仏谷川は、右谷・左谷ともゴルジュを割る大滝が続く、遡行価値の高い谷である。水量の多い時期に行くことをお勧めする。

### (4)湯来冠山 シオイシ谷(1級上)

冠山登山道のあるクス谷の支流であるが、クス谷の荒れた、植林で暗い溪相からは想像できない、溪畔林がきれいで源流まで滝の連続する、すばらしい谷である。

### (5)笹ヶ丸山 椿谷(2級上)

笹ヶ丸山の鉾ノ峠に発する谷で、源流の広い森の水をあつめた流れは、花崗岩を穿った困難なゴルジュの中に、いくつもの大滝をかけている。こんなところに、こんな美溪がと、思うような谷である。

### (番外) 天上山 鴨ヶ谷(2級)

田ノ尻川支流の短い谷だが、中流部に非常に困難なゴルジュを有し、その中に美しい秘滝が落ちている。上流部は倒木で荒れているが、秘滝を見るだけでも行く価値がある。

## 13. 結びにかえて「広島 陽のあたらない所」

マイナーな地名を検索していて、「広島 陽のあたらない所」という自転車紀(奇)行のブログを見つけた。作者の中国痴呆建設局さんは、もうお亡くなりになられているのだが、知られていない、あるいは、知ろうとしない場所についての、作者の目のつけどころと、ちょっと屈折した感じが気に入っている。自分も最近、1/2.5万地図とにらめっこして、有名ハイキングコースの隣の陽のあたらない場所を訪れているが、予想が当たったり外れたり、自分にとっては発見があり、これが結構面白いのである。山は面であるが、ルートは線であるから、バリエーションの数は無限である。歴史等の要素がからめば、さらに面白い。自己満足なのであるが、多少のオリジナリティはあるかと。